

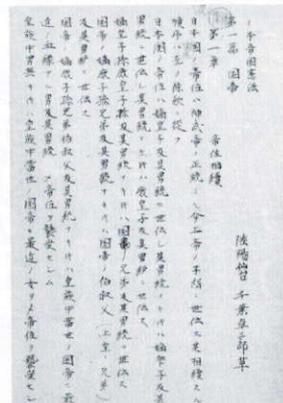
新井勝紘氏のプロフィール

認定NPO法人・高麗博物館前館長、元専修大学教授

1944年生まれ。町田市立自由民権資料館主査、国立歴史民俗博物館助教授、専修大学文学部教授。2015年定年退職。日本近代史・民衆史を専門とし、特に自由民権運動史研究。1968年に東京経済大学の色川大吉ゼミの調査で、「五日市憲法」を最初に手にして、卒論にする。以来、五日市憲法研究に取り組む。歴博では、近代の常設展示にかかわり、自由民権や被差別部落、アイヌ、関東大震災の朝鮮人虐殺事件など、差別や人権の問題に取り組む。最近は軍事郵便の収集・研究。著書『五日市憲法』（岩波新書）、『関東大震災 描かれた朝鮮人虐殺を読み解く』（新日本出版社）、編著『日本の時代史——自由民権と近代社会』（吉川弘文館）など。

五日市憲法草案とは

昭和43年(1968)夏、東京都西多摩郡五日市町深沢(現、あきる野市)の土蔵から「日本帝国憲法」と毛筆書された憲法草案が発見されました。204条からなるこの憲法草案の起草者は「陸陽仙台 千葉卓三郎」。この憲法草案の発見者である東京経済大学色川大吉教授とそのゼミのメンバーの調査によって、彼は宮城県栗原郡志波姫町伊豆野(現、宮城県栗原市)出身の仙台藩士であることが分かりました。千葉は五日市町の勤能小学校(現、五日市小学校)の2代目校長を務め、当時盛んだった自由民権運動に地元の人々と参加、明治14年(1881)この憲法草案を作ったのです。千葉の起草した憲法草案は、「国民の権利」と「国会」についての条文が全体の半分以上の115条もあり、国民の権利擁護に重点をおいた憲法草案として知られます。千葉をはじめとする五日市地方の人々の英知を結集したものととして、色川教授によって「五日市憲法草案」と名付けられました。



千葉卓三郎の略歴

嘉永5年(1852)6月宮城県栗原郡志波姫町伊豆野(現、栗原市志波姫町)に生まれました。父、宅之丞は仙台藩士(御不断組約50石)。母、ちかの。16歳で戊辰戦争に従軍(白河口の戦い)し、敗北。明治7年(1874)頃、上京。西多摩郡各地で教師を務め、同13年頃西多摩郡五日市町(現、あきる野市)に定住。地元の人々と自由民権運動に参加。同14年勤能小学校(現、五日市小学校)の2代目校長となるも、同16年(1883)11月12日病死。31歳。仙台市北山にある資福寺の千葉家墓所に埋葬されました。

千葉卓三郎記念碑

仙台市北山の資福寺にある千葉卓三郎の顕彰碑。昭和54年(1979)11月11日仙台市千葉卓三郎記念碑建設委員会(会長 菊地養之輔)によって、市民・県民665名の寄付金で建てられました。資福寺は千葉卓三郎の墓があった場所(現在、千葉家の墓所はありません)。碑には「五日市憲法草案」の中から抜粋された6ヶ条(基本的人権の保障、法の前の平等、教育の自由・義務教育、地方自治、人民権利の優位、国事犯の死刑禁止・陪審制度)が刻まれた銅板がはめ込まれています。ほぼ同時期に起草地五日市町と卓三郎の出生地志波姫町に同じ条文を刻んだ顕彰碑が地元民有志によって建てられました。



【お申し込み方法】

下記のお申込書に必要事項をご記入いただき、**FAX 022-268-1667** までご送信ください。

「千葉卓三郎没後140年記念講演会」参加申込書

ふりがな	
氏名	
電話番号	
メールアドレス	
住所	